平成八年十月二十日　（日）　郷土研究会資料

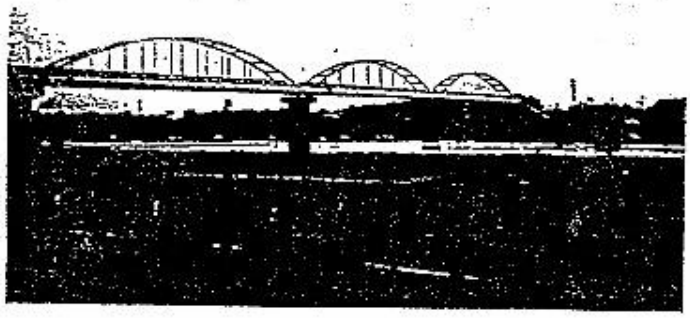
第二三四回　史跡めぐり

中川周辺の史跡を訪ねる

（吉川橋から中川水管橋まで）

吉川市章

越谷市郷土研究会



中川水管橋

第二三四回　史跡めぐり案内

行　先　中川周辺の史跡を訪ねる
（吉川橋から中川水管橋まで）

日　時　平成八年十月二十日

集　合　越谷駅東口前　午前九時

コース　越谷駅（吉川行バス乗車）～吉川橋下車
－東町水神社－金剛寺－伊南理神社－東
養寺の板碑－中川水管橋－（吉川）密厳
院－観龍院－蒿高神社－清浄寺－芳川神
社－延命寺－吉川橋（バス停）～越谷駅

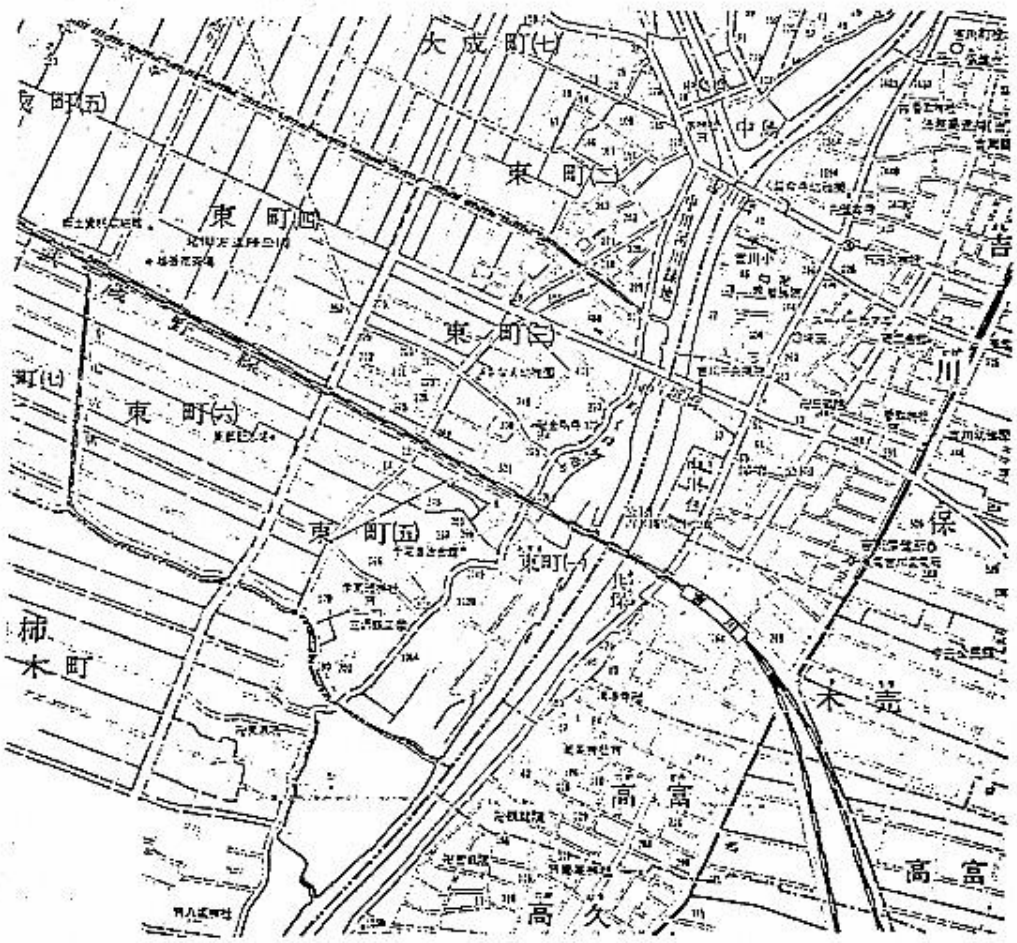
参加費　一、五〇〇円
（交通費、資料代他含む）

案内者　理事　鈴木　種雄
・　理事　池田　仁

主　催　越谷市郷土研究会

資料　鈴木秀俊

（史跡めぐり地図）



南百（なんど）の水神社

所在地　越谷市東町二丁目

川の多い越谷市内では、古くから農業用水や生活用水の確保、水難除け、水害除け、舟運の安全を願って水神が信仰されてきた。

越谷市東町二丁目は、昔、八條領南百村と呼ばれていた。地名は難渡とも書かれ、渡しの難所からともいわれるが未詳。また、南百のド（ドー）は川の合流点を指すという。水神社は奥州旧街道に面し、まさに北を流れる元荒川と東を流れる古利根川（中川）が合流する場所に鎮守として祀られ崇敬されてきた。

南百の水神社

この地は古くから「南百の渡し」と称され、越ケ谷宿と二郷半領を結ぶ古利根川（中川）の重要な渡船場として賑わっていた。ここに明治七年八月、平沼村（吉川市）の徳江忠次郎が自費で木橋を架けた。橋名を「徳江橋」（現、吉川橋）といい、渡橋銭を徴収したので別名「賃取り橋」と呼ばれていた。

明治四十年、水神社に村内の無格社手間天神社を合祀した。祭神は弥都波能売命と少彦名命である。

金剛寺

所在地　越谷市東町三丁目

金剛寺は真言宗の寺で、山号をもと稲荷山慈眼寺と称し、中川を控えた奥州旧街道筋の古寺の一つである。本尊は正観音菩薩。明治期に四條村妙音院や三輪野江村東眼寺を併合し五鈷山金剛寺と改名したと

伊南里神社

金剛寺

いわれている。

昔、ここは別府（別符）村と称されたが、別府とは荘園の追加開墾地である別符田からきた地名ともいわれている。

当寺には、嘉吉二年（一四四二）在銘の弥陀三尊板碑、文明十年（一四七八）在銘の弥陀一尊板碑がある。また下総国名都借村清瀧院天文十八年（一五四九）の印信血脈、その他江戸時代の寺檀関係古文書が多数保存されている。境内の太子堂には、もと隣村四條村妙音院に祀られていた首だけの聖徳太子像（胎内仏）が納められている。「新編武蔵風土記稿」によれば、江戸時代この太子像はことに霊あらたかということで、千住宿に移し衆人の信仰を集めたが、その後、千宿や四條村の住民が病災　にかかることが多くなったため、千住宿に移　したのは神慮に叶わぬことであったと悟り、再び四條村に移したと記　されている。また当寺の裏手の畑地には小さな塚があり、寛文二年（一六六二）十月銘の二童子が刻まれた文字庚申塔がある。

伊南理神社

所在地　越谷市東町五丁目

伊南理神社は、中川を控えた奥州旧街道に面したもと千疋村の鎮守で稲荷社と称していた。勧請年は不明であるが、早くから開けた所にあることから古社の一つと考えられる。明治四十年別府村の鎮守久伊

豆神社を合祀し、現在伊南理神社といい、宇賀之魂命と大己貴命の二柱を祀る。境内には天神社の祠、塞神塔などがある。ここは草加市柿木町との境にあたるが、神社裏には十二塚があり、戦国期の戦死者を葬ったと伝えられるが、今でもその一つが残されている。

また、神社の隣の墓地は、もと利剣山東養寺といわれた真言宗の寺であった。ここには、天正三年（一五七五）十二月銘の庚申待供養廿一仏板碑（越谷市文化財）や元禄七年（一六九四）十月銘の青面金剛彫像庚申塔等がある。

中　川

県東部を南流する利根川水系の河川。大正から昭和にかけての庄内古川の付け替え後、現松伏町南端での古利根川への合流点以後、ないしは越谷市での古利根川と元荒川の合流点以後を中川と呼び習わしたが、現在は建設省の呼び方に従い、最上流の島川の一水源、羽生市の羽生地先から島川・庄内古川・古利根川を合わせて、東京都で荒川に合流するまでを中川と呼んでいる。一級河川で幹川流路延長は八四・四キロ。

吉川市　（人口　八月一日現在　五三、九五一人）

県の南東端に位置する市（平成八年四月一日市制施行）で、南は三郷市、西は草加・越谷の両市、北は松伏町に接し、東は江戸川を隔てて千葉県と対している。昭和三十年三月、吉川町と三輪野江村・旭村が合併して誕生した。

市は、江戸川と中川に挟まれ肥沃な沖積低地によって占められており、江戸時代には"二郷半領と呼ばれて、早稲米の産地として知られていた。

中川左岸の自然堤防上の首邑吉川は、延文六年（一三六一）の市場祭文に、花和田・彦名（三郷市）とともに名を残す古い街である。中世から市が立ち、江戸時代にも中川の舟運によって、周辺農村の米穀や、ムシロ、縄などの集散地として賑わった。

主産業は農業で、米穀・ネギ・レタス・キャベツ・山東菜が産出されるが、近年、中小工場の進出が目立ち、吉川駅を中心に都市化が進んでいる。

宏山 厳院　　高久三八

医王山錫杖寺と号し、宗派は単立、本尊は地蔵菩薩を祀る。もと山城国（京都）醍醐報恩院末檀林所（室町時代の僧侶の学問所）であった。慶長六年（一六〇一）伊奈備前守が埜田成就の祈祷を命じ、慶安元年（一六四八）九月十七日に徳川家光より寺領十石の御朱印を拝領し、本堂に徳川家歴代の位牌を安置する。境内には八幡太郎義家とともに、後三年の役（一〇八七）に奮戦した鎌倉権五郎景政の子孫の深井六郎二郎景孝の墓がある。

武蔵国新西国三三カ所観音札所の第七番であり、新四国八八カ所の五七番札所である。

厳院密

密厳院のイチョウ（埼玉県指定天然記念物）

樹齢推定　六百年から八百年　　寸法　高さ約三〇㍍　太さ五・三四㍍　根回り　十二・〇五㍍

この境内の大イチョウは、子育てイチョウとして親しまれている。雄木で関東一の銀杏をつけるとされている。

観音 院　　高富一七七

常住山と号し、もとは新義真言宗に属し龍善院と号した。寺歴は火

災のため不祥。本尊は不動明王を祀る。明治初期に観蔵院・普門院を合寺し観龍院となる。武蔵国新西国三三カ所観音札所の八番である。

蕎高同（そばたか）神社　高富一一九

祭神は高木大神といわれ、商売繁盛の神とされる。高木の神とは、高い木に降下する神の意で、その信仰はアジヤ大陸に広く分布している。このため蕎高神社は小高い丘や山に祀られている。

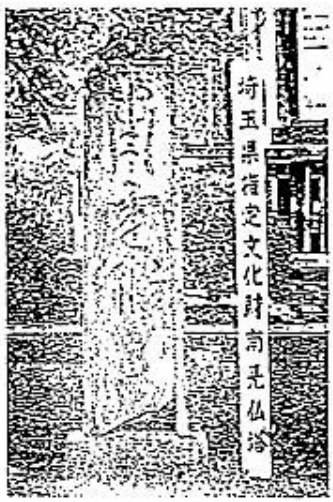
例祭は、毎年一月七日に行われる「あられぶっつけ」である。この行事は御歩射の一つで、前年とれた米であられを作り重箱一杯につめて持ち寄り、祈祷が終わると祝宴が催ほされ、ほどよく盛り上がったころ、持ち寄ったあられをぶっつけ合って、五穀豊穣、無病息災を願うものである。

また当神社には、享保三年の高さ八十㌢の地蔵銅像（座像）が保存されている。

清浄寺　木売一〇七―一

楠井山と号し真宗本願寺派の寺院、本尊は阿弥陀如来を祀る。

「風土記稿」に新義真言宗西光院、「郡村誌」には、ほかに浄土真宗本願寺派清浄寺が記される。西光院は親鸞



の弟子西念が正応元年（一二八八）頃に建立したと伝える。清浄寺は文政期（一八一八―三〇）の建立とされ、もとは西光院の一角にあった堂が前身であったという。「遊暦雑記」は木売村西光院の亭宾と題して、親鸞の直弟子西光坊浄善が住職の頃のことをはじめ、寺号を西光寺から西光院に改めたこと、本堂前の土中から親鸞像が発見されたことなどを詳述しており、例年四月十四日から三日間真影堂での御取越と称する法会修行には、江戸から七里の道を遠しとせず参詣するという。

境内には県指定文化財の西念法師塔（鎌倉時代）と南無仏塔がある。南無仏塔には正安三年（一三〇一）と刻まれた禅宗風板碑で、書風は宋僧一山一寧のものといわれる。

芳川神社

芳川神社　平沼三一五

江戸時代は平沼村の鎮守で、諏訪社とみえる。主祭神は建御名方命。旧村社。社記によると、文治三年（一一八七）在地の吉川氏により地主神を氏神諏訪神社として再興したと伝える。別当は京都地蔵院直末延命寺門徒の智光院であった。享保二十年（一七三五）京都吉田家から正一位諏訪大明神の宗源宣旨（社蔵文書）を受ける。

明治初年、神仏分離により智光院に代わり当地の旧家戸張家が神主となる。明治四一年（一九〇八）から大正二年（一九一三）にかけて村内二一社を合祀し社名を現行に改める。古式を伝える神事に、正月七日の春祭りで行う武佐弓始式がある。

延命寺　吉川一五四一

元荒川が中川に合流する地点の東岸に位置する。宝光山地蔵院と号し、真言宗智山派の寺院で、本尊は延命地蔵菩薩を祀る。寺伝では永和三年

延命寺

（一三七七）清仙が草庵を造り、応安五年（一三七二）祐義が伽藍を整えたとあるが、年時が反対なので清仙が祐義の名義で開山したともいわれる。文安三年（一四四六）祐範が中興し、天正年間（一五七三―九二）平沼の里長である五郎左衛門の先祖の戸張氏が外護し、地域の寺院として発展させたという（風土記稿）。暦応二年（一三三九）奥書の地蔵縁起も蔵するが、伝来の経緯などは未詳。慶長三年（一五九八）三月の伊奈忠次黒印状（円明院蔵）に「河辺三ケ寺」の一として寺号がみえ、一町歩の除地（新開地）が設定されているが、後日朱印状を申請する旨明記されている。慶安元年（一六四八）朱印高一〇石が寄せられている。

延宝三年（一六七五）の本末寺改覚書には本寺は京都智積院とあり、当寺の末寺二〇カ寺が連印している。このとき吉川の歓喜院・悉地院は鍋ケ崎東福寺（流山市）との両寺支配であったが、以降当寺の単独支配となったと記されている。（寺蔵文書）

参考文献

中川コース案内　埼玉県・越谷市

郷土歴史大事典・埼玉県の地名　平凡社

わたしたちの郷土・ふるさと編　吉川市教育委員会・吉川市郷土史研究会

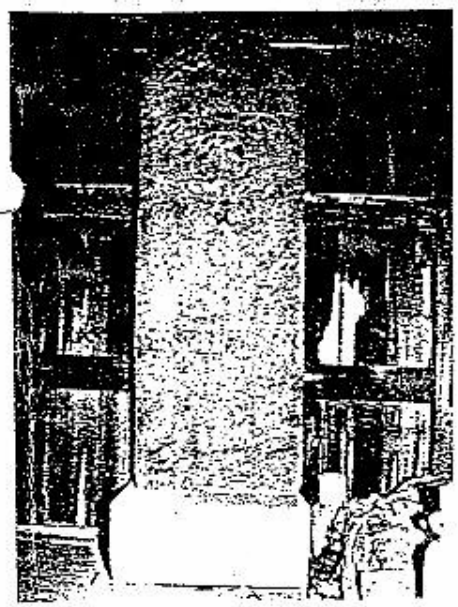
編集　鈴木　秀俊

廿一仏板石塔婆

市指定・考古資料

昭和60年9月27日指定

●越谷市東町5－238（金剛寺）



山王二十一仏とは、比叡山に奉祀する「上七社」「中七社」「下七社」の二十一社の本地仏のことで、平安時代に天台宗の僧徒たちによって唐の天台山の地主山王にならい、比叡山の守護神としてまつられたことにはじまる。

この廿一仏板碑は、上部に日月、天蓋を刻み、左右二行で「申侍供養」と刻まれ、年号は中央に一行で「天正三年(1575)乙亥十二月吉日」との銘がある。下部は三具足、前机を置き造立者の名が刻まれている。種子配列は釈迦を主尊として二十一の種子が配されている。